



# トンガレポート <11>

2018/4/20

青年海外協力隊 シニアボランティア  
2016年度 2次隊 卓球隊員 西岡 昌彦

トンガレポートも今回で11回目、毎回掲載を楽しみにしてくださる方が増え大変嬉しく思います。今回はトンガで生活していて「時々おきること」と「毎日おきること」の二つを紹介します。

1、最初に「時々おきること」を紹介します。さて、これは何でしょう？違いを見つけてください。

A

B



間違い探しのような題目ですが、上の画像 A と B から違いを見つけてみてください。この2枚はほぼ同じ場所から同じ方向を撮影したものです。手前から奥に伸びる道路はトンガの首都ヌクアロファのメインストリートで私の家は写っていませんがこの通り沿いのすぐ右側後方に位置します。

Aは全てが休みになるトンガの日曜に撮影しましたので車は道路の奥の方に1台しか写っていません。Bは平日の昼間なので多くの車が写っていますが、車・人・看板の図柄・影以外に大きな違いが一つあります。さて何でしょう。

トンガで生活しているとこれがおきない月もありますが、多いと月に2回この現象が起こります。



それではこれから私と一緒に違いを見つけにヌクアロファの街を散歩しましょう。メインストリートを手前から奥に向かって進んでいきます。左の画像は出発点から道路を横断したところです。どんどん進んでいきます。

下の画像に写っている左側の建物はトンガの郵便局。ここまで私の家から徒歩で7~8分。

そしてメインストリートはこの先突き当たり右に直角カーブとなっています。右の画像にある大木の少し先は「海」だからです。

ここで再度 A の画像をご覧ください。メインストリートの突き当たりには何も写っていませんが、それ以外の画像には何かが写っています。さて何でしょう？ さらに先へ進みましょう。





ドーン！ 正体は豪華客船でした。画像では船の大きさをお伝えしにくいのですが相当大きいのは事実です。こんな船が時々やってきます。

私がトンガへ来た当初、船とは知らずメインストリートの突き当たりに前日まで何もなかったのに一夜にして巨大なビルが建ったと勘違いして驚いたものです。今では接岸時の汽笛で来航に気付くこともありますし、私の自宅前は

王家の墓、隣は美しい形のバシリカ教会、両方とも岸壁から徒歩圏内の観光スポットなので下船してガイドブックとカメラを手にした大勢の観光客が自宅前のメインストリートを歩いていくため客船の来航を知ることができます。客船が来航すると上の画像に写っている島内観光用のバスがフル稼働、写っていませんがバスの右側には土産物屋のテントが立ち並び、ヌクアロファの街も普段以上に活気づきます。

私は現在卓球の指導者としてトンガに来ていますが、過去に旅行会社に在籍した経験がありますので船旅は一番贅沢だという認識があります。いつか私も優雅な旅行をしたいものだと思いながら毎回客船を眺めています。



## 2、教会・鐘・犬・歌

次にトンガの生活で「毎日おきること」を紹介します。前項でも少し触れましたが自宅の隣は



(バシリカ教会 2017年3月撮影)

美しく、目立つ円錐形の屋根を持つバシリカ教会です。教会の右側に写っているマンゴーの大木(2月のサイクロンでほぼ倒壊)の向こう側が自宅です。調べたわけではありませんので個人的な意見ですが、首都ヌクアロファ市内でも5本の指に入るほど大きな規模ではないかと思います。

さて、隣に教会があると何が起きるかご案内しましょう。月～土曜の毎朝6時から 30分程度ミサが行われます。それに伴い合図の鐘が鳴ら

されるのですが、ここに住んでいるうちに以下の通り鳴らし方に規則があるのに気付きました。

①5:30 (30分前)同じ強さで3回ワンセット×3回 + 少々間をおいて同じ強さで9連打、②5:45(15分前)同じ強さ、等間隔で15連打、③6:00(スタート)若干強弱をつけながら30連打強、日によって回数は少し異なり最後は弱めに打鐘 といった具合です。

そのため寝ていても打鐘のパターンさえ覚えておけば時間がわかるので便利ですが、バシリカ教会には特大の3つの鐘(他の教会は1つのところが多いようです)があり、ほとんど耳元で鐘の音が聞こえるのでしっかり目覚めてしまいます。まあ、もともと早起きなのでよいのですが。

正午にも 5:30 と同じパターンで打鐘され、ある日その光景を目にする機会がありました。打鐘の担当者は次の画像(イヤーマフという名称だそうです)のような空港で飛行機を





誘導する方が遮音のために装着しているのと同じものを使用していました。どれだけ大きな鐘の音か、多少なりとも想像していただけるかと思います。

そして、ついでに「犬」。もともと夜中の間、どこかで吠えていて迷惑なのですが、早朝バシリカ教会の鐘が鳴るとそれに合わせて隣と裏の犬が遠吠えの大合唱。日本でも救急車のサイレンに犬が共鳴するのを聞いたことがある方が多いと思いますが、それと同じことがほぼ毎朝おきます。そのためここに

(イヤーマフ)

住むと私でなくても自動的に早起きになれるのではないかと考えています。

朝6時の鐘、最後少し弱めに打鐘された後は参列者により一斉に合唱が始まります。音楽の隊員に聞いたところ混声四重唱というのだそうです。私はキリスト教徒ではありませんが歌の中にはいくつか聞き覚えのあるメロディーもありますし、毎朝歌声を聞いていると歌詞さえわかればこれなら自分も歌えるといった曲も聞こえてきます。



(日曜日のミサ開始30分前の合図にのみ使用される木太鼓)



(バシリカ教会内部 当日は地区ごとによる合唱の発表会が行われていた 2018/4/1 撮影)

そしてトンガの方々の歌声は素晴らしく、大変上手です。老若男女、教会に通われていますので合唱の際に男性2パート、女性2パート 合計4パートのハーモニーは聴き手を魅了します。上の画像、この日は夕方に突然大合唱が始まり

ほんの少しだけ様子を覗きに行ったつもりが美声に聞き入り、立ち見で2時間過ごしてきました。

トンガ国民のほとんどがキリスト教徒と聞いています。皆さんどこかの教会に通って合唱されていることを想像すると国民総歌手と言っても過言ではないと思います。しかしここではその美しい歌声をお伝えできないので大変残念です。

平日のミサは毎朝6時開始で所要約30分、合唱の合間に短い説教があります。日曜は参列者が多いためか8時と10時、2回ミサが行われ所要は1回につき約1時間15分で平日よりも合唱数が多いのと合間の説教も長めです。

そして日曜はミサ開始30分前の合図は鐘ではなく上の画像の木太鼓を二人で打ち鳴らすのが特徴です。これは大昔、彼らが情報伝達手段に使用していた名残ではないかと個人的に想像しています。右上の画像は日曜10時のミサ開始時の鐘を鳴らす様子。中央の担当者はイヤーマフを装着。この日は私の撮影を意識し、いつもより派手に鐘を鳴らしてくれたような気がします。動作を見てこの鐘のスイングを止める際、最後に小さな音が鳴るといこともわかりました。



トンガでは日々このような環境の中で「日本とは異なる音」に囲まれて生活しています。ここで生活するうちに、教会における日々の行事はきっちり時間通りに行われるのに、それ以外の待ち合わせや卓球でいうと練習開始時刻など、ほとんどの事柄は時間通りに始まらないのは何故だろうという大きな疑問が私に残ったのも事実です。

トンガでの残り生活も半年を切り、現在は積極的にここでの出来事を「記憶」と「記録」に留めるようにしています。「記憶」は歳のせいもありあいまいになりがちなのでこの先もトンガレポートを通じて「記録」にまとめていきたいと考えています。